

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択結果

種目	発行者	書名
国語	光村図書出版	国語
書写	光村図書出版	中学書写
社会 (地理的分野)	東京書籍	新しい社会 地理
社会 (歴史的分野)	東京書籍	新しい社会 歴史
社会 (公民的分野)	東京書籍	新しい社会 公民
地図	帝国書院	中学校社会科地図
数学	学校図書	中学校数学
理科	新興出版社啓林館	未来へひろがるサイエンス
音楽 (一般)	教育芸術社	中学生の音楽
音楽 (器楽合奏)	教育芸術社	中学生の器楽
美術	光村図書出版	美術
保健体育	大修館書店	最新 中学校保健体育
技術・家庭 (技術分野)	開隆堂出版	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて
技術・家庭 (家庭分野)	開隆堂出版	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生
英語	教育出版	ONE WORLD English Course
道徳	日本文教出版	中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科【国語】	種目【国語】	発行者【光村図書出版】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点①の工夫として、読書活動として、「ポップ作り」、「感想の共有」、「読書記録」など、各学年3つの活動を掲載している。 ○ 視点①の工夫として、各学年、「情報整理のレッスン」、「思考のレッスン」、「情報社会を生きる」を配置し、教材の文章や資料に、学習課題を示すとともに、巻末に、一覧を掲載している。また、「情報社会を生きる」に、「情報の整理」の参考となる資料を掲載している。 ○ 視点③の工夫として、「漢字に親しもう」で、指定した言葉を使用して文章をつくる課題を設定している。また、巻末の「資料編」に、「語彙を豊かに」を設け、さまざまな言葉を掲載している。 ○ 視点③の工夫として、裏見返しに、2ページにわたり、「言葉を味わう」として、時、色、季節を表す言葉を掲載している。 ○ 視点④の工夫として、教材の後の「学習」に「振り返る」を設け、学習した教材や、過去に学習した教材を取り上げ、自分の言葉でまとめ、学習を振り返って次につなげることができるようにしている。 ○ 視点④の工夫として、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習において、表現する際の参考として、「達人からのひと言」を設け、さまざまな業種の人のコメントを掲載している。 ○ 視点⑩の工夫として、教材名に、「好きなことをスピーチで紹介する」、「資料を引用してレポートを書く」などの言語活動例を示している。 <p>以上のおり、光村図書出版の教科書は、本市の「読書活動の推進に力を入れている」という実態や、生徒の「複数の文章や資料から目的に応じて必要な情報を取り出すことや、相手意識を持って、分かりやすく相手に伝えることに課題が見られる」、「多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、国語科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		
教科【国語】	種目【書写】	発行者【光村図書出版】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点③の工夫として、運筆について、筆圧の違いを視覚的に示すとともに、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。 ○ 視点③の工夫として、切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりすることができるようにしている。 ○ 視点④の工夫として、広島に関する教材として、「伊都岐島(厳島)神社」、「はがきの表書き」、「都道府県行書一覧」、「志望理由書」を扱っている。 ○ 視点⑥の工夫として、各学年に、「学校生活」、「日常生活」などを設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしているとともに、国語科と関連がある教材には、教材に「国語」と示している。 ○ 視点⑨の工夫として、書写で学習したことを生かすよう、「やってみよう」、「国語」、「学校生活」、「日常生活」に、学級スローガン、個人目標、本の帯、壁新聞、テレビ番組のタイトルデザインなどの言語活動を示している。 ○ 視点⑨の工夫として、第3学年では、学習の参考として、「私の好きな言葉」に、スポーツ選手や漫画家の直筆の書を掲載している。 <p>以上のおり、光村図書出版の教科書は、生徒の「文字表現の多様化により、場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を日常生活に活かすことができている生徒が多い」という課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、国語科 書写で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科 [社 会] 種目 [地理的分野] 発行者 [東京書籍]

- 視点②の工夫として、中項目「世界の諸地域」の、各小項目の最後に「基礎・基本のまとめ」を設け、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行い、「まとめの活動」では、各州で着目した「地球的課題」を、探究のステップで例に挙げた資料を参考にしながら、振り返る学習活動を設定している。
- 視点②の工夫として、特設ページ「資料から発見」を設け、資料を読み取る力や、考える力、説明する力などの、地理的な技能を身に付けさせる学習活動を設定している。
- 視点③の工夫として、小項目の課題を「探究課題」として、資料から読み取った情報をもとにして、「中国・四国地方では、なぜ交通・通信網が重要な役割を果たしているのでしょうか」と示し、更に本文ページにも、「どのような」、「どのように」等の学習課題を掲載している。
- 視点③の工夫として、中項目「日本の諸地域」の各小項目の最後に、「基礎・基本のまとめ」として、「〇〇地方をふり返ろう」を設け、各地方の特色等をまとめる学習を行うために、探究のステップを解決しながら振り返る学習活動を設けている。また、「まとめの活動」では、探究課題を踏まえて、より発展的な課題に取り組む学習活動を設けている。
- 視点④の工夫として、世界の諸地域や日本の諸地域の学習で、「まとめの活動」を設け、「探究のステップ」で挙げた資料や学習した内容に関連する資料を取り上げながら問題を解決していく学習活動を設定している。
- 視点④の工夫として、資料や学習課題に「見方・考え方」マークを付し、地理的な見方・考え方を活用して考察を深める活動を設定している。
- 視点⑨の工夫として、「まとめの活動」を設け、「ウェビングマップ」、「クラゲチャート」、「ランキング」などのシンキングツールを利用して、導入で示された「探究課題」について、考えたことを自分の言葉でまとめる学習活動を設定している。
- 視点⑨の工夫として、「まとめの活動」の中に、「みんなでチャレンジ」を設け、グループで活動する課題を設け、論述したり、意見交換したりする学習活動を設定している。

以上のおり、東京書籍の教科書は、本市の「地域の実態や課題を調べる学習に適した地域である」という実態や、生徒の「地図や諸資料を有効に活用して事象を説明する力に課題が見られる」、「自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする力に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 地理的分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科〔社会〕	種目〔歴史的分野〕	発行者〔東京書籍〕
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点②の工夫として、「基礎・基本のまとめ」で、基礎的な語句の確認に表現活動を設けている。また、「まとめの活動」で「探究課題」を解決する活動を設定している。 ○ 視点②の工夫として、歴史学習に必要な技能を身に付けさせるために、言語活動を含む学習課題を取り入れた特設ページ「資料から発見」を設けている。 ○ 視点③の工夫として、学習の見通しを立てられるよう、中項目の冒頭に、中項目の課題とともに、各小項目の課題を「探究のステップ」として段階的に示している。 ○ 視点③の工夫として、各小項目の課題を「探究のステップ」と示し、2～4ステップで段階的に解決していくように示している。 ○ 視点⑦の工夫として、特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「広島復興と平和への思い」をテーマに、「広島市」を取り上げ、広島が戦後から復興した背景を追究し、現在の広島の課題を考え、将来の広島の構想について話し合う課題解決的な学習活動を設定している。 ○ 視点⑨の工夫として、各中項目の最後に「まとめの活動」を設け、Xチャートやマトリックスなどの思考ツールを用いながら、時代の特色を考察し、自由に表現する学習活動を設定している。 ○ 視点⑨の工夫として、「みんなでチャレンジ」を随所に設け、「グループで話し合いましょう」、「クラスで発表し、意見を交換しましよう」等、意見交換をする学習活動を設定している。 <p>以上のとおり、東京書籍の教科書は、本市の「身近な地域の調査や体験活動を通して、歴史を直接感じるができる」という実態や、生徒の「歴史的事象を多面的・多角的に考察する力に課題が見られること」、「課題を把握し、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題が見られること」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 歴史的分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		
教科〔社会〕	種目〔公民的分野〕	発行者〔東京書籍〕
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点①の工夫として、中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「まとめの活動」を設け、「みんなでチャレンジ」の中で、「効率」、「公正」の観点から考えさせる学習課題を掲載している。 ○ 視点①の工夫として、公民的な見方・考え方を活用して考察するための学習課題を掲載している。 ○ 視点③の工夫として、大項目の学習課題を「探究課題」と示し、中項目の学習課題を「探究のステップ」と示している。また、小項目ごとに「学習課題」を掲載している。 ○ 視点③の工夫として、各大項目の最後に、「探究のステップの問いを解決しよう」を設け、シンキングツールを利用し、各中項目を振り返る学習活動を設定している。 ○ 視点③の工夫として、各大項目の最後に、「基礎・基本のまとめ」を設け、言語活動を取り入れて語句の確認を行い、「まとめの活動」では、「導入の活動」で示された課題と関連している新たな学習課題について、これまで学習してきた内容や、さまざまな見方・考え方を生かして取り組む学習活動を設定している。 ○ 視点④の工夫として、主に資料に「見方・考え方」を付し、重視する観点等を示し、関連する学習課題を掲載している。 ○ 視点⑨の工夫として、「導入の活動」と「まとめの活動」に「みんなでチャレンジ」を設け、グループで協力し、意見交換する学習活動を設定している。 ○ 視点⑨の工夫として、「みんなでチャレンジ」を随所に設け、政治参加や模擬裁判等の意見交換する学習課題を掲載している。 <p>以上のとおり、東京書籍の教科書は、本市の「様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できる地域である」という実態や、生徒の「習得した知識を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察・構想したことを説明する力に課題が見られる」、「論拠を基に自分の意見を説明、論述したりする力にも課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 公民的分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科〔社会〕	種目〔地図〕	発行者〔帝国書院〕
--------	--------	-----------

- 視点①の工夫として、折込見開き3ページで「南西諸島と各群島・列島等」の地図を、次の3ページで「日本列島」の地図を順に掲載している。また、日本列島・南西諸島の縮尺を400万分の1、沖縄島、各群島・列島等の縮尺を100万分の1としている。
- 視点①の工夫として、「北海道地方」のページでは、「北方領土」の問題にかかわる日本とロシア・ソ連の国境の変遷を示す地図を掲載している。
- 視点①の工夫として、東アジアと日本の交流の歴史のページを設け、大陸から見た日本の地図を示し、交流の様子を写真とイラストで掲載している。
- 視点③の工夫として、世界の各州の地図に、同縮尺・同緯度・同経度の日本を示している。
- 視点③の工夫として、「日本」の各地方で、各地方の地図と一部拡大地図に続いて、「資料」として自然についての地図と2点間の断面図、降水量・人口分布・農業・工業、交通を同じ形式で掲載している。また、地方ごとの特色を示す地図と防災にかかわる地図資料を掲載している。
- 視点④の工夫として、地図活用の技能を身に付けるための「地図活用」のコーナーを設定し、課題を提示している。さらに、さまざまな所に、資料図を見るときに着眼点を示した「学習課題」のコーナーを設定している。
- 視点⑧の工夫として、「学習課題」と「地図活用」のマークがある箇所問いにより、学習内容を深める活動を掲載し、「地図活用」のコーナーでは、基礎的な知識・技能を確認する問いや、「クラスで発表しよう」、「説明しよう」等の言語活動を含む学習課題を掲載している。

以上のとおり、帝国書院の教科書は、本市の「豊かな自然環境に恵まれ、太田川のデルタ地形に位置し、自然災害等の発生しやすい地域である」という実態や、生徒の「地図や諸資料を有効に活用して事象を説明することに課題が見られる」、「自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする力に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 地図で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科 [数 学]	種目 [数 学]	発行者 [学校図書]
----------	----------	------------

- 視点②の工夫として、関連付けたり振り返ったりするために、目次、側注、各領域の前及び巻末に既習事項との関連を示している。
- 視点②の工夫として、巻末の「〇年の復習」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基礎・基本となる問題」には「▲」マークを付けている。
- 視点③の工夫として、本文中の「おしえて！」の欄で、学習の中で生徒が感じる疑問を取り上げ、その後のページの「Tea Break」で発展的な内容にも触れながら解説している。
- 視点③の工夫として、学習の区切りに「どんなことがわかったかな」のコーナーや、各章末に「〇章『◇◇◇』を学んで」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、次の内容につなげる疑問を「次の課題へ！」で示している。
- 視点④の工夫として、巻末に、SDGsの特設ページを設け、複数のデータを分析し、国際的な課題を見だし、自分たちにできることは何かを考える活動を設定している。また、学習の最後に自己評価表を掲載し、1年間の学習を振り返ることができるようにしている。
- 視点④の工夫として、側注の「！見方・考え方」の欄で、どのような数学的な見方・考え方を働かせるかを示している。また、巻末の『見方・考え方』をまとめよう」で、導入の「Q」で扱った問題を取り上げ、どのような見方・考え方を働かせたかを問題解決の流れの図に添えて示している。
- 視点⑨の工夫として、巻末の「表現する力を身につけよう」で、発表のしかたのポイントを示している。また、裏見返しに個人で考察する際や、グループで話し合う際に活用できるアイデアボードを付けている。
- 視点⑨の工夫として、第3学年の「式の計算」では、話合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面を計17か所掲載している。

以上のとおり、学校図書の教科書は、本市の生徒の「事象を数学的に解釈し、図表やグラフなどを適切に用いて論理的に考えたり、数学的な表現を用いて説明したりする力に課題が見られる」、「正答率30%未満の生徒の割合が高く、基礎・基本の定着のための手立てが必要である」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、数学科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科 [理 科]	種目 [理 科]	発行者 [新興出版社啓林館]
----------	----------	----------------

- 視点①の工夫として、各章末、各単元末、各学年末、3学年の巻末に、演習問題を設けている。
- 視点①の工夫として、学習内容を広げたり深めたりするための参考として、「なるほど」の欄を設けている。
- 視点⑥の工夫として、第2学年で、「梅雨期・秋雨期の停滞前線の発達にともなう豪雨による災害や、夏から秋の台風にともなう暴風雨による災害もある。(中略)また、あたたかくて湿った大気の流れなどによる積乱雲の急速な発達は、短時間にせまい範囲で局地的大雨を生じて被害をおよぼしたり竜巻などの突風による災害を起こしたりすることがある。」と説明し、平成30年豪雨災害での広島県内の土砂災害の様子を写真付きで紹介している。
- 視点⑥の工夫として、第3学年で、「自然が人間の生活におよぼす影響」として章を設定し、「私たちが生活している地域で、これまでに発生した自然災害を調べる。」との活動を設定している。また、別表に「大雨注意報」、「大雨警報・大雨特別警報」を緊急度別に紹介するとともに、「記録的短時間大雨情報」と「土砂災害警戒情報」についても紹介している。
- 視点⑧の工夫として、各単元にある実験のうち、1つを「探Q実験」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動としている。さらに、各単元の終わりに「みんなで探Qクラブ」を設定し、習得した知識・技能を統合し、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を仕組んでいる。
- 視点⑧の工夫として、第1学年と第2学年の巻末に、「理科における話し合いと発表」として、生徒同士で話し合う学習活動の手順の説明がある。また、対話の方法の例として、ブレインストーミングとジグソー法についての紹介がある。
- 視点⑧の工夫として、生活の中の何げない疑問を、学習内容を活用して対話を通して解決する場面として、「みんなで解決」を設けている。

以上のとおり、新興出版社啓林館の教科書は、本市の「大雨による自然災害も多く発生しており、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが必要な地域である」という実態や、生徒の「科学的な概念を活用して分析・解釈することに課題が見られる」、「基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、理科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科〔音楽〕	種目〔一般〕	発行者〔教育芸術社〕
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点③の工夫として、巻頭の学習内容を示した「学習内容」で、教材ごとに関連する音楽を形づくっている要素を示している。 ○ 視点③の工夫として、教材ごとに、関連する音楽を形づくっている要素を、見開きページの左側注に、アイコンで示している。また、学習したことをもとに考える際の参考として、「注目するポイント」を示している。 ○ 視点⑤の工夫として、我が国や郷土の伝統音楽について、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。「越天楽」の唱歌を歌う場面では、五線譜と筆算の縦譜（一部）を掲載し、「歌う時のポイント」、「歌う時の姿勢」、「拍子の取り方」を付して、歌う活動を促している。 ○ 視点⑤の工夫として、各学年の裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。 ○ 視点⑤の工夫として、ポピュラー音楽の様々なジャンルについて、2ページにわたり鑑賞活動を設定し、「ポピュラー音楽のジャンル」で海外編と日本編に分けて、更に4ページにわたり、様々なジャンルの相関関係を示したり、写真を掲載し、解説したりしている。 ○ 視点⑨の工夫として、各学年で設けている「深めよう！音楽」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。生徒が直接書き入れる部分は、表の形式になっている。 ○ 視点⑨の工夫として、「曲のよさをプレゼンしよう」のコーナーを設け、自分で選んだ曲について、その曲の音楽的な特徴や感じ取ったことをもとに、曲の良さや聴きどころを伝え合う活動を設定している。また、プレゼンする曲について、直接書き込む部分を設けている。 		
<p>以上のおり、教育芸術社の教科書は、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科 一般で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科 [音楽] 種目 [器楽合奏] 発行者 [教育芸術社]

- 視点①の工夫として、リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文やQ&A方式で示している。
- 視点③の工夫として、巻末の「楽器の図鑑」で、様々な楽器を整理し、写真を掲載している。
- 視点③の工夫として、「学習内容」で、三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材との関連の大小を色の濃さで示している。
- 視点③の工夫として、各楽器のページでは、教材ごとに学びのポイントを示している。また、「アンサンブルセミナー」のページでは、教材ごとに学習目標と音楽を形づくっている要素を示すとともに、学習のポイントが示されている。
- 視点④の工夫として、和楽器の学習において、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介するとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。その際、練習の手順や練習のポイントを文で示している。
- 視点④の工夫として、巻末の「楽しもう！和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。
- 視点⑧の工夫として、「アンサンブルセミナー」に掲載された教材全てに「深めよう！音楽」を設定し、示された譜例や吹き出しを活用しながら友達と交流し、グループで表現を工夫したり、パートの役割を話し合ったりする活動を促している。

以上のとおり、教育芸術社の教科書は、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科 器楽合奏で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科 [美術]	種目 [美術]	発行者 [光村図書出版]
---------	---------	--------------

- 視点①の工夫として、巻末に「学習を支えるための資料」として、第1学年では24ページ、第2・3学年では28ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。
- 視点③の工夫として、第2・3学年の「メッセージを伝える」において、「ヒロシマ・アピールズ 1983、1984、2015」の3作品を掲載している。
- 視点③の工夫として、鑑賞の版画や絵巻物・漫画の題材では、それぞれ2作品について和紙の風合いをもつ紙を使用して掲載している。
- 視点③の工夫として、第2・3学年、鑑賞の「最後の晚餐」では、トレーシングペーパーを挟み、かき込みができるようになっている。
- 視点⑥の工夫として、「みんなの工夫」というコーナーを設け、第1学年では4題材、第2・3学年では4題材で、中学生の制作や発想の様子を詳しく掲載している。また、各題材は、鑑賞→表現の流れで学習を進めることで、鑑賞したことを表現に生かすことができ、発想や構想を助ける構成になっている。
- 視点⑥の工夫として、生徒のアイデアスケッチやレポートが13題材で紹介されている。
- 視点⑥の工夫として、第2・3学年では発想や構想を助ける特集ページ「発想を広げる」を設けている。
- 視点⑧の工夫として、生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を第1学年で6箇所、第2・3学年では18箇所を示している。
- 視点⑧の工夫として、第2・3学年「学習を支えるための資料」に特集「発想を広げる」を設け、言語活動を行う際の方法や手順を示している。

以上のとおり、光村図書出版の教科書は、本市の生徒の「主題に対して豊かに発想し構想を練る力に課題がある」、「表現において意見を述べ合ったり、鑑賞において自分の価値意識をもって批評し合ったりする力に課題がある」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、美術科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科 [保健体育]	種目 [保健体育]	発行者 [大修館書店]
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点①の工夫として、各小単元に学習内容に関連した「資料」が示されており、資料を読みとるためのポイントとして、「よみ取るマーク」を付している。 ○ 視点①の工夫として、「運動やスポーツの体と心への効果」の特設ページ「クローズアップ」で、体力の要素を体づくり運動との関係で示すとともに、体力向上のための計画を立てる学習活動を示している。 ○ 視点③の工夫として、各章末の「章のまとめ」に、学習を振り返って自己評価をするための「学習の振り返り」を設けている。 ○ 視点④の工夫として、学習した知識を実生活に生かして考える課題として、「体育の窓」を1箇所、「保健の窓」を6箇所に示している。 ○ 視点④の工夫として、小単元「自然災害によるけがの防止」、特集資料で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、警戒レベル、災害から命を守る行動などを取り上げている。 ○ 視点④の工夫として、小単元「災害と環境」で、生活に伴う廃棄物の衛生的管理について示すとともに、災害による衛生環境の悪化や災害に関する情報の活用法などを取り上げている。 ○ 視点⑧の工夫として、特設ページ「特集資料」で、自身の経験等を基に話し合いを行ったり、解決方法を考えたりする学習活動を示している。 		
<p>以上のとおり、大修館書店の教科書は、本市の「災害への知識と備えが必要な地域である」という実態や、生徒の「筋力、全身持久力に課題が見られること」、「習得した知識や技能を活用して課題解決する」、「学習したことを相手に分かりやすく伝えようとする」が課題であるという状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、保健体育科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科 [技術・家庭]	種目 [技術・家庭 (技術分野)]	発行者 [開隆堂出版]
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点③の工夫として、問題解決の具体例を示すとともに、「さまざまな課題解決の方法例」として、生徒が創意・工夫する視点のヒントを示している。 ○ 視点③の工夫として、問題解決の具体例の中の「問題の発見」に「社会とのつながり」を記載し、技術分野の学習と生活や社会がつながっていることを意識させることができるようにしている。 ○ 視点④の工夫として、技術分野の学習の3つの要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」について、「技術分野の学習の流れ」として示すとともに、4コマ漫画や学習の流れのイメージ図を使って説明している。 ○ 視点④の工夫として、内容A～Dの学習を終えた後で、技術分野で学習した内容と持続可能な社会の構築との関連について考える内容を掲載するとともに、「主体的に技術にかかわる態度」や「技術を工夫し創造する態度」を持ち続けることの重要性について確認できるようになっている。 ○ 視点⑤の工夫として、知的財産を保護・活用することに加えて、創造することの重要性について示すとともに、掲載しているコラムの中で、技術に携わる者の倫理観についても詳細に触れている。 ○ 視点⑥の工夫として、実践的・体験的な問題解決学習の具体例の名称について、「安全性を重視した」や「調理スペースが広がる」など、何を目的としたものかがわかるようになっている。 <p>以上のとおり、開隆堂出版の教科書は、本市の生徒の「世の中の技術に触れる機会が多く、技術分野の学習への関心は高いが、年々、ものづくり体験は少なくなり、また、生活体験は個人差が大きくなっている」、「技術と生活や社会、環境との関係について理解し、知的財産を尊重しながら創意・工夫する力に課題がある」、「技術と生活や社会、環境との関係について理解し、問題解決学習を行う力に課題がある」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、技術・家庭科 技術分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		
教科 [技術・家庭]	種目 [技術・家庭 (家庭分野)]	発行者 [開隆堂出版]
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点②の工夫として、各内容の最初のページに「学習前に、今のあなたの興味・関心を書きましょう。」と「学習を終えて、何に関心を持ちましたか。」の記述欄を設け、学習前と学習後の比較ができるようにしている。 ○ 視点②の工夫として、巻末の「生活の課題と実践」で、学習の流れを示し、実践のまとめ方として、「レポート」、「ワークシート」、「新聞やポスター」「プレゼンテーションソフト」、「ポートフォリオ」、「作品」を例として示している。 ○ 視点④の工夫として、巻末の折り込みページに、防災、減災についてまとめた「災害から『いのちと生活』を守るために」を8ページにわたり掲載している。 ○ 視点⑤の工夫として、調理手順の中に、「Q1」や「Q2」などを付し、それに対応した調理のポイントを「調理方法のQ&A」の形で示し、「なぜ～？」と考えさせるようにしている。 ○ 視点⑤の工夫として、栄養素を調べる実験を設け、視覚的、科学的に捉え、実感を伴って学習できるようにしている。 ○ 視点⑧の工夫として、各題材の最後に持続可能な社会をテーマとして、それぞれの学習内容と関わりの深いSDGsの目標を具体的にに取り上げ、話し合わせる活動を設け、これからの学習を深められるようにしている。 <p>以上のとおり、開隆堂出版の教科書は、本市の「災害への知識と備えが必要な地域である」という実態や、生徒の「実生活の中にある問題をあまり感じておらず、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、学校で学んだ知識や技能を家庭生活に積極的に生かすことができていない」という課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、技術・家庭科 家庭分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書採択理由

(広島市)

教科 [外国語]	種目 [英 語]	発行者 [教育出版]
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点③の工夫として、単元の目標を、「Speak about～」や「Talk and Write about～」の形で、扉に英語で示している。また、パートごとに、「～しよう」の形で、各ページの上部に、知識・技能等の目標を日本語で示している。さらに、単元の終末に、各目標に対する「ふり返ろう」を設定している。 ○ 視点③の工夫として、各パートに設定されている知識・技能等に関する目標について、達成度を評価する「Think & Try」を設定している。 ○ 視点⑦の工夫として、各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が示されており、いずれも、SDGsに関するテーマとなっている。 ○ 視点⑦の工夫として、各学年の巻末に、学習した内容を活用し、ペアでの応答や即興的なやり取り・発表をするための話題や語彙を示した「Activities Plus」を、赤マスキングシートを付して収録している。 ○ 視点⑦の工夫として、巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～4つ掲載している。 ○ 視点⑧の工夫として、複数の領域を統合した活動は、第1学年中盤から、各単元末の「Task」や、各単元、各パートの「Think & Try」で設定し、「聞く・書く」、「聞く・話す(発表)」や「読む・話す(発表・やり取り)」、「読む・書く」等の2領域を統合した様々な種類の言語活動になっている。 ○ 視点⑧の工夫として、各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Tips for Speaking / Listening / Reading / Writing」、「Reading」等で、「聞く」、「読む」、「話す(発表)」、「書く」の4領域を、コツを示すとともに扱っている。 <p>以上のとおり、教育出版の教科書は、本市の生徒の「まとまりのある文章を読んで説明文等の大切な部分を理解することに課題が見られる」、「与えられた情報に基づいて正確に書くことや、自分の考えや意見を書くことに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、外国語科 英語で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		
教科 [特別の教科 道徳]	種目 [道 徳]	発行者 [日本文教出版]
<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点④の工夫として、体験的な学習を促す教材を、各学年、2つ掲載し、教材文の終わり「学習の進め方」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、写真とともに示している。また、別冊「道徳ノート」に自分の考えを記入するページを設けている。 ○ 視点⑦の工夫として、複数の教材やコラムで構成したユニット『「いじめ」と向き合う」を第1学年では3つ、第2・3学年では2つ設定し、各学年、合計5～7つの教材を掲載している。また、ユニットの扉ページを設け、いじめ問題について考える上で意識したいことをメッセージで示すとともに、1年間にユニットで学ぶ教材やコラムの紹介を掲載している。 ○ 視点⑦の工夫として、各学年、コラム「プラットフォーム」を設け、いじめと向き合うための資料とともに発問を掲載している。 ○ 視点⑩の工夫として、1教材1ページで構成した別冊「道徳ノート」に、めあてを記入できる欄、考えることや考えたことを記入する欄、他者の意見や話し合いをメモする欄を設けている。また、様々な教材に対応できるように、教材名や内容項目、主題名等を空白にしたページを設けている。 ○ 視点⑩の工夫として、各学年、「学習の進め方」の「学習を深めるヒント」のコーナーに、ふせんやホワイトボードを使って話し合いを深める方法を掲載している。また、写真と吹き出しを用いて「考えを深める視点」を示している。 <p>以上のとおり、日本文教出版の教科書は、本市の「いじめの未然防止に向けた取組を推進している」という実態や、生徒の「当事者として、道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に取り組むことが必要である」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、道徳科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。</p>		